



# 元苦高専教授に 森山さん講師に

# 「元気なうちに幕

取り上げる  
句に登場する  
単語の用法も  
紹介し、2枚  
のレジュメに  
は毎回約50首  
の句を列挙。  
森山さんは  
「延べ1万首  
は詠んだ」と  
語る。

句に登場する単語の用法も紹介し、2枚のレジュメには毎回約50首の句を列挙。森山さんは「延べ1万首は詠んだ」と語る。

葉人の思いを  
る。最初は万  
朗詠するのが  
た思い出があ  
それが楽しか  
20年には山  
予定だったが  
やむなく中止  
思い出の地、  
る計画とさう  
新年会に行  
カルタ」も会  
ベント。19  
が百首を選歌

葉歌碑の前で追体験でき恥ずかしかつた」と話す。が、近年は陰地域を訪問、コロナ禍で。来年11月に大和路を訪れ。う「万葉百首を代表するイ88年に会員し手作りした

に釧路公立毎月駆け付ける「1人の講師集を詠み、20した会はないくやれた」と題した特別活動に終止符

「へ、転後も、  
りた」と回顧。  
師で36年間万葉  
20巻をほぼ読了  
い。いじままでよ  
く満足さうだ。  
後の例会があ  
後1時半からは  
書館で会員と元  
にした「さわら  
さわらび会は  
集は面白し」  
別例会を開催。  
行を打つ。

Digitized by srujanika@gmail.com

**万葉集全20**

（芳小牧市）の万葉集研究サークル「さわらび会」（蓬田美津子会長）は、10日の特別例会を最後に36年の活動に幕を閉じる。元芳小牧高専教授の森山弘毅さん（84）＝啓北町＝を講師に39回の例会で万葉集全20巻、約4500首をほぼ読了。森山さんは「元気なうちに幕を閉じた」と思った。会員が熱心で楽しかったから長く続けられた」としみじみ語る。

# 万葉集全20巻ほぼ読了

講生らが講座だけで学びを終えるのは惜しい」と有志を募り、会員22人で活動をスタートさせた。

会の目的は▽万葉集を詠む▽会員同士の親睦を図る▽万葉の旅をすること一の三つ。月に1度の例会で万葉集を詠むほか、約2年に1回は万葉集で取り上げられる地域を訪ね、万葉人に思いをはせてきた。例会では新潮日本古典集成「萬葉集」をテキストに1度に10首程度を読了した。

4日程度で、1回目は89年、  
飛鳥や斑鳩（いかるが）と  
いった大和路。その後2回  
続けて大和路を訪れ、95年  
以降は九州や信濃にも足を  
延ばした。訪問前には事前  
学習を行い、帰宅後は余韻  
を楽しみながら「旅の記し」  
を書く。

木の板のカルタで、森山さんは「さわらび会にしか存在しない誇らしいこと」と胸を張る。